

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074100100		
法人名	医療法人成雅会		
事業所名	グループホーム陽だまりの丘		
所在地	福岡県糟屋郡須恵町新原14番地の7		
自己評価作成日	平成31年3月25日	評価結果確定日	平成31年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成31年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の泰平病院より訪問診療を受け入居者の体調管理を行っています。
 入居者のADL面に差があり自立されている方から寝たきり状態の方に合わせた安全な食事を管理栄養士の指導のもと提供している。
 又、入居者の生活機能向上の為、リハビリカンファレンスを三カ月毎に開催し、活気ある生活が送れる様にとつめている。
 年間レクリエーションを計画し入居者様が季節を感じ楽しんで頂いている。又、敷地内で春は花見、秋は芋掘り、地域の行事に参加したり、屋外レクリエーションに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花壇は職員が手入れした季節の花々が咲き誇り、桜の花吹雪が見える玄関前で、椅子に座って花見や外気浴を楽しみ、開所以来の陽だまり祭は盛況で、地域祭りでは入居者や職員の演目も恒例となっている。毎年度目標を掲げ、4ユニット毎に職員の顔写真や抱負が共用空間に掲示され、隣接する母体医療法人の多様な職種と連携し、その人らしい生活支援に日々取り組み、昨年度は2名の方を看取っている。家族の意向を伺いながら、日中はベットのマットレスを上げてベッドで臥床する時間を少なくし、共用空間で風船パレー等に参加したり、立ち入り禁止の張り紙で事務室の冷蔵庫を開ける行為を無くすなど、現状に即したケアが実践されている。家族会や運営推進会議で運営等について説明し、「RUN伴」などの参加を通じて、認知症の方々と共に生きる社会を目指した運営が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **陽だまりの丘1丁目1番地**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠愛」を理念として、入居者一人ひとりがその人らしい生活が出来る様に支援し、環境作りに努めている。	法人やホームの理念、毎年度の目標を掲げ、ユニット毎に職員の顔写真や抱負が共用空間に掲示されている。前年度の情報の共有により「事故発生ゼロに近づける」を評価し、今年度の目標を作成予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブボランティアの方の協力を得て陽だまり祭を入居者に楽しんで頂いている。又地域の祭りや発表会に参加している。	開所以来開催している陽だまり祭は盛況で、地域祭りでは入居者や職員の演目も恒例となっている。法人主催の認知症カフェに参加したり、認知症の人と伴に生きる社会を目指すイベントの「RUN伴」に職員が参加し、たすきをつないでいる。今後は公民館でのカフェ開催も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば、話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方とご家族代表者と一緒に、アンケート結果や年間の事故状況や入居者状況を報告し助言を頂きサービス向上に活かしている。	隣接する小規模多機能事業所と合同で、地域や家族の参加で定期的開催され、議事録を玄関で公表している。会議では、服薬に関するインシデントやアクシデントを報告し、参加者から投薬の対応やインシデントで防げたことの評価を受けている。	運営推進会議の設置目的を鑑み、定期的に発行しているホーム便りで全家族に会議内容を報告したり、玄関に張り出すなどの工夫で、さらなる透明性のある運営を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き、現状報告と情報交換を行っている。	運営推進会議で情報を交換したり、町主催の他職種連携会議に参加し、施設や取り組みを紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30. 4月身体拘束適正化委員会を作り、毎月委員会を実施している。現在拘束対象の方はいないが日頃のケアの中で見られるスピーチロック、虐待防止策等を外部研修、現状を聞きとりしながら改善策を話し合っている。	大声を出さない、「です、ます」などの丁寧語を使うことなど、日々接遇に関する指導を行っている。「お寺に参る」とか「病院に行く」と外出傾向のある入居者もあり、玄関ドアを手動にしたり、チャイムや共用空間に置かれた鏡台を活用しながら行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を毎月開催し日頃の対応を見直している。 スタッフ内、施設内、外部の研修会参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し伝達講座を行っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、入居時に説明している。成年後見制度を活用されている入居者が3名あり、司法書士の後見人は担当者会議に出席されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改定時のたび、その都度相談員から説明し同意を受けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間家族アンケートを実施、その結果を分析し、ご家族と運営推進会議で報告している。	年4回発行しているホーム便りの送付や来訪時に、近況を報告している。家族会では介護保険改正に伴う加算を説明したり、家族同士の話し合いの時間を設けている。家族からは、日常生活動作が良くなった、認知症が進んでいる等の意見が出ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議や管理者会議で意見や提案を確認して、検討改善を行っている。	定期的に開催されている会議では率直な意見交換が行われている。各ユニット毎に携帯電話1台の購入を要望し、外出傾向のある方の同行などに活用している。又、法人栄養科の提案で全食を外部業者に委託し、それまでの調理時間はケアの充実に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調にあった働き方、調整を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ一人ひとりが働きやすい環境作り、能力発揮出来る様にしている。	隣接する母体医療機関から異動、ハローワークや職員の紹介で、30～70歳代までの男女の職員が勤務している。中には開所以来勤務している職員もある。各ユニットの管理者が中心となって新人教育に関わっている。定年が65歳となり、今年度は法人全体で働き方改革が推進される予定で、会議や休憩時間の確保が課題となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人での研修参加を促すと共にユニット会議や身体拘束適正化委員会で検討している。	年1回法人主催で人権研修が開催されたり、県主催の人権研修に参加した職員が伝達講習を行っている。「ちょっと待って」、「トイレの回数が多い」などがスピーチロックになることを理解し、ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外への研修会に参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	須恵町多職種連携会やグループホーム協議会の研修参加や、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居者と面談を行い、サマリーなどの情報で安心出来る環境作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時ご家族の思い、要望を確認している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの要望を問い、その方に合った対応が出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に合った生活の場作りを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を保てる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った神社へ初詣や祭りなど季節ごとの行事へ参加している。	家族が同行して理美容院や病院等に出かけたり、毎日来訪する家族とドライブに出かける入居者もある。以前のカラオケ仲間や所属している宗教団体の来訪もあり、馴染みの関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間行事予定表を作り、風船バレー等ユニット毎の関わりを持てる様に取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族とケアプラン作成時に確認すると共に、状況変化時は、その都度意向の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを整備し、入居者の意向や思いを把握し、家族にも入居者の生活歴などの記載をお願いしている。担当職員が日々の関わりで把握した意向をユニット全体で共有し、更なる意向の把握に努めている。	整備されているアセスメントシートに把握した情報を追記し、更なる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やサマリーから情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで状況把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にご家族参加をお願いし現状に即したその人らしい生活プラン作成に努めている。	担当職のモニタリング結果や入居者や家族の意向に沿って、計画を見直している。日中はベットのマットレスを上げてベッドで臥床する時間を少なくし、共用空間で風船バレー等に参加したり、立ち入り禁止の張り紙で事務室の冷蔵庫を開ける行為を無くすなど、現状に即したケアが実践されている。	入居者の言動を評価するのではなく、なぜかと分析し、なるほどと共感できたことを担当者会議で家族と話し合い、さらなる入居者らしい生活の支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入しスタッフ内で情報を共有出来る様に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人施設に協力を依頼している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や認知症カフェ参加を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて医療機関受診を行っている。日頃の体調管理は訪問診療を受けている。	入居者の希望に応じて、隣接する母体医療機関の受診や訪問診療を受けたり、家族が同行して他の医療機関を受診する入居者もある。常勤の看護職員が個々の入居者の体調を管理し、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師常駐しているので異常時対応が早めに来れる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員との連携で医療機関との情報交換が出来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「看取り」について説明している状態変化に合わせて医師、家族と面談を行い意向を確認している。運営推進会議でも取り組み状況を報告している。	意向確約書を取り交わし、昨年度は2名の方を看取っている。1名の方は主治医との面談で、隣接する母体医療法人の介護医療院に転院されている。入居者は家族の意向を重視した話し合いを重ね、今後も看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応を各ユニット事務所に表示している。 AED場所や急変時対応研修会は、毎年行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練を昼夜想定で行っている 施設内見学をして頂き地域の方の協力を運営推進会で依頼している。	消防署による設備点検では共用空間で使用しているフェンスを紐でくくり、避難経路を確保したり、居室に掛けた暖簾の長さなどに指導を受けている。法人として地域避難所に毛布等を提供しているが、今後は地域自主防災組織にも参加したいと管理者は話している。3日分の備蓄を一覧表で管理している。	昨今の異常気象から、地域防災組織への加入や法人として多様サービスを提供されているので、保険者に災害時の要援護者の福祉施設として申し出られることも期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導時大声で呼ばない、出さないように気を付けている。 手振りや、ホワイトボードで筆談を行い対応している。	家族の了解を得て、○○ちゃんと呼称している入居者もあるが、普通の大きさの声で丁寧に氏名で呼び掛ける入居者が多い。壁に向かって独語しながら食事をするのが、その方には安心できると、心身の状況に応じた環境づくりに取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望があれば買物に同行し、自分で選んで頂いている。食べたい物があればなるべく希望に添う様に努めている。 (夕食等も買って食べられる事がある)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、臥床時間は入居者それぞれの体調に合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時は本人の好みに合わせて対応している。洗面所の鏡は車椅子用に低くしたり、ブラシを置いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で手伝って頂いている。 (食器拭き、テーブル拭き、取り分け)行事に合った食べ物を提供している)	入居者の状況に応じて、委託業者から届いた食事を取り分けたり、食器を洗ったり拭くなどの役割をお願いしている。食事介助や声かけ、見守りで、其々のペースで完食する入居者が多い。また、ホーム傍の畑で栽培した大根を入居者と抜いて作った漬物や手作りのおやつを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、足りない時は好みの物を捕食して頂いている。水分はドリンクゼリーなど飲み易いものを提供している。(毎月会議に管理栄養士が参加し、栄養アシメントを行い助言を受けている)		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	家族の方に支援して頂く 歯科では、口腔ケアをして頂いたり又一人ひとりに応じたケアを行っている。 (ハミガキ、口腔スポンジなど)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を作り排泄のパターンを把握する様に努めその方の能力に応じたケアを行っている。 毎朝下半身の更衣、清拭を行っている。	日中はトイレでの排泄を支援し、夜間のみポータブルトイレを使用する入居者もある。毎日陰部清拭が行われ、感染症防止に努めている。職員間で排泄状況を数字で申し合わせ、排泄パターンに沿った声かけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や好まれる飲み物や果物で水分を多めに取って頂く事で下剤を減らす様に対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日と時間は決めているが本人の希望や状況により入浴して頂いている。 入浴が難しい人は清拭、足浴、手浴、ドライシャンプーなどで対応している。	週2回の入浴を支援している。移乗動作が困難な場合はシャワーキャリーを使用したり、職員2名で対応している。本人が希望すればシャンプーをと柔軟に対応し、入浴拒否には手浴や足浴に変更したり、無理強いせず翌日に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間の長い人は居室でラジオや音楽を聴いて頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時声出し確認誤薬防止に努めている。状態変化はスタッフ間で報告し対応している。薬の管理は4ユニット統一している。薬剤師の管理指導に助言を受けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに応じた役割を持って頂いている。 レクリエーションやカラオケ、塗り絵等で気分転換して頂いている。季節の行事、風船バレー、演芸大会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	予定を立て、買物やドライブに行っている。家族と外出、外泊、食事や美容室などに行かれている。	八幡宮お祭りや地域祭りの参加は恒例となり、外出時の笑顔満載のホーム便りが発行されている。日頃はホーム玄関などに並べられた椅子に座って、外気浴を兼ねて桜吹雪や季節の花々を眺めることが日課となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて所持されている。スタッフと買物に出かけ使われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度計、温度計を使用して調整している。換気や暖房、冷房をこまめに調整している。季節に応じて環境整備を行っている。	玄関前の花壇は職員が手入れした季節の花々が咲き誇り、周囲の桜から花吹雪が舞っている。懐かしい年代物の飾り棚、電話、花瓶などが並んだ玄関を中心に1、2階に各ユニットが開所している。フェンスで共用空間を区切り、テレビコーナーを設けたり、職員が1対1でゆっくりと食事介助ができる場所を設けている。壁には入居者の作品が掲示され、年代物のタンスが置かれるなど、寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い方やレベルに応じて席を配置している。お互いの居室に行かれて音楽やお茶を楽しまれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂いている。車椅子の方は、ひざ掛け・暖かいブーツを使用されている。	居室入口に暖簾がかかったり、居室間違いを防ぐため、壁に大きく氏名を掲示している。中には立体的な表札を掲げているユニットもある。タンスの上は家族写真が置かれたり、籐椅子セットが持ち込まれた居室もあり、どの居室も清潔で整理整頓されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには解りやく表示を付けたリトイレのドアは車椅子が入りやすい様に改修した。		